

(1) 活動報告

| 地区名 | 東置賜 | 班 名 | 教育財政研究班 |
|----------------|-----------|--|---------|
| 月 日 | 場所 | 活動内容 | |
| 6/12 | 防災センター | (地区校長会よりの教育費調査依頼を受けて) ・研究内容と日程の検討 | |
| 6/19 | | ・調査依頼書発送(東置賜地区各小学校中学校宛) | |
| 6/28 | | ・調査依頼書集約・確認(集約担当者) | |
| 7/17 (第1回) | 川西町交流館 | ・学校経費調査資料の確認と検討 (調査票と集計表の照合・グラフの確認) ・学校経費調査内容と報告書内容の検討 | |
| 8/ 8 (第2回) | 防災センター | ・学校経費調査の「全体的な考察」検討 ・教材備品費の配分状況調査資料の確認と「全体をとおして」の検討 ・学校経費調査内容と報告書内容の検討 ・印刷分担 | |
| 8月27日 | 南陽市立赤湯小学校 | ・中間報告書の製本作業と中間報告の内容の確認 ・地区校長会との合同会 調査内容等について中間報告 | |
| 10/18 (第3回) | 防災センター | ・基準財政需要額と教育費の対比の検討 ・基準財政需要額の研修 ・各市町の連携会議についての交流 ・情報交換 | |
| 11/19 (第4回) | 防災センター | ・資料の製本作業 ・今年度の反省と来年度の研修内容について ・情報交換 | |

(2) 研究のまとめ

1. 研究テーマ

財務から子どもの育ちを支援する学校事務

2. 今年度の反省

- 調査依頼が例年より遅かったが、前年度のうちに準備していただくよう依頼していたのでスムーズに進められた。来年度も例年通り協力をお願いしたい。
- (異動前の3月中にまとめておくようお願いしたい。各校で事務部の反省資料にも是非活用してほしい。)
- データの集計担当の世代交代、心配することがなかった。

3. 研究の成果と来年度の課題

①研究の成果

- 他市町と比較でき、グラフも視覚的な効果がありわかりやすい。
- 基準財政需要額や教材備品等、興味が薄い箇所を強制的に学ぶことができた。
- 8月の校長会との合同会議で、今後の調査の在り方や校長としての調査資料の活用のされ方を聞けて参考になった。

②来年度の課題

- 来年度は資料の作り方が変わるので、今年度の班員は積極的に関わらなければならない。
- 資料の活用の仕方がわからない。
- 資料から、学校予算が不足しているという「困り感」が伝わらない。
- 集計のしかたで、年ごとの数字どりをして各校の推移が見られたら面白いのではないかな。

(3) 研究資料及び刊行物

「令和元年度 地区内にみられる学校経費の調査」

令和元年度 研究活動報告書

(1) 活動報告

| 支部名 地区名 | 東置賜 | 班名 | 学校事務研究班 |
|------------|-----------------|---|---------|
| 月 日 | 場 所 | 活 動 内 容 | |
| 7月16日 | 沖郷公民館 防災センター | ・グループ研修 「学校財務カレンダー作成グループ」と「教材ふりかえりシート作成グループ」に分かれて、お互いのグループの研究を実践するため今後の計画を立てた。 ・来年度の研究の方向性について | |
| 9月26日 | 沖郷公民館 防災センター | ・グループ研修 ・今年度の研究のまとめ方について ・実務交流（若手の質問疑問に経験者が回答） | |
| 11月25日 | 赤湯公民館 えくぼプラザ | ・研究実践の相互発表会 (学校財務カレンダーを作成して、教材ふりかえりシートの取組、日々の実践について 等) | |
| 12月11日 | 沖郷公民館 防災センター | ・来年度の研究の方向性について ・実務交流（若手の質問疑問に経験者が回答） | |

(2) 研究のまとめ

1 研究テーマ

「チーム学校」の実現にむけて、組織的な財務事務を進める

2 研究の成果

①学校財務カレンダー作成グループ

- ・作成する過程で確認し、一年間の流れが分かり、活用することで先を見越した業務を進めることができ、仕事の効率化に役立った。
- ・会議の度詳しいものになり、公費・私費の関わりが分かり、管理職、事務室、係・担任が連携して業務にあたることを見える化することができた。

②教材ふりかえりシート作成グループ

- ・グループ以外の班員や地区内に取り組みが広がって良かった。

3 今年度の反省

①学校財務カレンダー作成グループ

- ・限られたスペースのどこまでの情報を記載するか悩ましかった。
- ・作成したカレンダーで交流したが、各々の工夫が勉強になり良かった。

②教材ふりかえりシート作成グループ

- ・取り組み時期が年度末年度始で、活動期間とずれるため、検証する手立てが必要。

③ 全体として

- ・お互いに他グループの研究を実践し、班内で共有できて良かった。

4 来年度への課題

- ・学校財務カレンダーに適宜修正を加えながら活用していく。
- ・小学校は新しい教育課程の全面実施となる。教材ふりかえりシートの取り組みを続け、積み重ねていく。

(3) 研究資料及び刊行物一名称を記入して下さいー

特になし